

地島

地島は福岡の沖にある山が多い森に覆われた島で、1月下旬から3月に咲く約6,000本の野生のツバキで有名です。地島は、日帰りの旅行先として人気があります。地島には、九州本島の神湊港から船で行ける港が2つあります。1996年、地島を縦断する魅力的な歩道を作るため、2か所の山道にツバキの木が植えられました。この道は、2時間以内で歩き通せます。

ツバキ

地島中に生育する数千本のツバキの木は、1月下旬から3月にかけて花を咲かせます。3月の「地島椿まつり」では、地元で獲れた海産物が屋台で販売され、音楽演奏の催しがあります。秋には、成熟したツバキの種を集めて椿油が作られます。椿油は、髪や肌の保湿に使われ、料理にも用いられます。

泊漁港

地島には、泊と豊岡という2つの小さな漁港があり、九州本島からの船は両方に停ります。九州本島に近いのは泊漁港の方です。泊漁港には筑前（現在の福岡）を治めていた黒田長政（1568～1623）の命により建設された石でできた元の埠頭の跡が残っています。

豊岡漁港

豊岡漁港は泊より小さな港で、島の西側に位置しています。この島唯一の店舗と食堂は、豊岡にあります。港を見下ろす小さな神社は、牧神社です。ツバキの並ぶ道が、港から地島の北端にある倉瀬展望台へと続いています。

厳島神社

泊漁港の近くにあるこの小さな神社は、海路を守る宗像三女神を祀っています。7月、この島に暮らす人々は、地島祇園山笠祭を行い、病気と災害から守られるよう祈りを捧げます。人々は、厳島神社を出

発し、飾りつけられた山車を引いて町の中を巡ります。次いで、山車を船で豊岡漁港に運んだ後、この神社に山車を戻します。

漁業

地島の主な産業の 1 つが漁業です。泊漁港の海岸では、タコを捕まえる陶器の罟が並んでいるのをよく見かけます。「椿まつり」では、新鮮な海産物が屋台で売られています。よく獲れるのは、タコ、イカ、クロダイ、ウニ、アワビなどです。この島では、水温が上がってアワビ、ウニ、サザエの水揚げが減るまで、素潜りで貝類や甲殻類を採る海女が暮らし、働いていました。地島の南東沖にはワカメが繁茂しています。ワカメで最もよく使われるのは葉状の部分であり、味噌汁に入れることが多いのですが、地島で暮らす人々は、ワカメの根元の部分（めかぶ）も食べます。通常、めかぶはゆでて刻み、ごはんに乗せて食べます。